

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700907		
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所		
事業所名	旭グループホーム		
所在地	三豊市高瀬町上高瀬5388番地262		
自己評価作成日	平成25年 7月 5日	評価結果市町受理日	平成23年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiryousoCd=3771700907-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成25年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誰が来訪されても帰りがたくなる場を目指している。近隣の来訪者、ご家族、友人、スタッフ、業者、すべての人がここは落ち着いて癒される、と言っていただけのスポットでありたいと思っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は、善通寺から三豊市高瀬に抜ける県道49号線大日峠に隣接した山間地にあり、ほとんど民家はなく、静かな場所に位置している。建物は、単独型鉄骨平屋の1ユニットで、アットホームな雰囲気である。職員は、ホームの理念である「旭の家族として幸福な一日であるよう」を目標に、利用者に対して優しく接し、安心して過ごせるあったかいホームづくりに一丸となって努力している。 運営推進会議は2か月に1回実施し、会議の記録を詳細に残し、また次回の開催日を確認して、会議を定期的に確実に開催できるように努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で考えた理念を申し送り時に唱和し、共有し、幸福な空間づくりへの実践に繋げている。	毎日の申し送りでは、職員全員で考えた理念を唱和し、日々の生活に繋げる努力がうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご家族様、地域の民生委員、自治会の方々と常々連絡し合い、出向いたり来訪されたりしている。	設立から9年目で、地元のホームに対する認知度も広がり、自治会や地域の方々とも連絡、交流、来訪があり、地域との繋がりがうかがえる。	自治会の集落がかなり離れているので、今後も、日頃からの密なる連携と繋がりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者、実習生の受け入れをしている。「認知症を守る会」へのスタッフの応援や、困っているご家族へのアドバイス(地域の方々)をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員から地域情報を得て、職員会議で報告し、反映している。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、内容が詳細に記されている。また、次回の開催についても確認している。職員への周知・確認も徹底されている。	運営推進会議のメンバーが固定されている感があり、地域の老人会、婦人会、消防署、自治会等、多様なメンバーに参加を呼びかけることで、サービス向上に反映させることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に出かけて行き、協力、質問事項等を共に考え、意見交換し、協力体制をとっている。	担当者は行政との連携を常に重視し、疑問の解決のために、行政との協力体制を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、職員会議時に同時開催し、共に考え、お互いに注意し合っている。	身体拘束委員会での結果を職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に積極的に参加して学び、知識を得、常に細かい注意を払っている。職員同志で注意し合う努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去において該当者がいたので学び、スタッフ一同で司法書士(後見人)と協力体制を築き、支援してきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、利用者様・ご家族様方の質問に答えるなど、話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営に反映させるつもりである。(今のところ意見なし)	家族の面会時に、職員に気軽に話ができるように雰囲気づくりに心がけ、意見等を引き出す工夫をしている。また、意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で機会を設け、反映させている。	運営委員会での話し合いや、報告書でも職員には周知し、また職員会議においては、管理者からの報告とともに職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ゆとりを持って仕事ができるよう、努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修へは、研修費の支援を行い、交代で参加し、また内部研修もその都度工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三豊介護サービス事業者協議会へ参入し、その場を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話し合う時間をより多くとり、また回数をより多く確保する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	とにかくご家族との連絡や話し合いを密にするよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院等と連絡し、情報をいただき、ご家族と話し合いながら支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように支え合えるよう、常に声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にとって来訪しやすい雰囲気づくりに努め、話し合い、支援する機会をつくるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催しに出かけ、馴染みの人達と会える機会を作る努力をしている。	文化祭や敬老会、秋祭りなどの地域で開催される行事には積極的に出向き、馴染みの方々との交流の機会を持つよう努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話し合えるよう介入し、橋渡しをするよう計らっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催し(旭ふれあいまつり等)への案内は欠かさない。ご家族への時分のあいさつは大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人と、とにかく話をする機会を多く取り、把握する。	利用者との対話を重視し、毎日の生活の中で、できるだけ多くの意志疎通が図れるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、近所の人、友人等からの情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの情報と、自分の様子観察を照らし合わせ、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りと職員会議の場で情報交換し、反映する。チームとして取り組んでいる。	毎日の生活状況から、利用者の変化に対応できるように職員全員で情報交換を行い、チームとして利用者の変化に対応できるように、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルへの記録、申し送りによる情報の共有等により、見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援は、家族との連絡を密に取りながら便宜を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで特技を活かした踊り等を演じていただき、ご利用者様とともに楽しめている。近隣の方々が演じて下さるので馴染み深い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三豊市立西香川病院との連携が非常にうまくいっており、医療支援も不安なく受けられている。	利用者のかかりつけ医を尊重しつつ、ホームとしては三豊市立西香川病院との連携で、急変時でも不安なく受診でき、本人・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	三豊市立西香川病院の訪問看護師の親身な支援を受け、情報交換してスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	三豊市立西香川病院仁井院長のおかげで、最良の関係づくりができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までの終末期介護はすべてご家族様、近隣の方々に喜ばれている。この体制を維持していく。	ターミナルケアについては、ホームでの話し合いや家族の意向により、ホームでできることは従来どおりの体制で維持する努力がうかがえる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、地元消防の救急隊員(救急救命士)によるAEDなどの研修訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の方々と交流し、協力体制を築いている。	建物は平屋建てで敷地の周りも空地が多く、避難には最適だが、事業所と自治会の集落との距離があり、夜間の火災では地域との協力体制に不安がある。	夜間の火災発生を想定して、日頃から地域への協力要請に努めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同志で連携し、お互いの言葉かけに注意し合い、常に細心の注意をしている。	常に利用者のプライバシーを重視して、さりげなく声をかけるなど、職員は細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴を心がけ、配慮しているので、ご利用様は伸び伸びしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常々の配慮は自他共に認めるところであり、先日実習生が感動してくれた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談し、本人らしさが出るおしゃれをしている。ご家族の協力も良好である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最も自信を持っている。現在まで当方の食事は皆楽しめている。具材の下準備を共同作業している。	利用者と職員が一緒になって、具材の下準備や食事の準備に楽しく取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録や申し送りにて、一人ひとりに適切な飲料を摂取できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの取り組みは自信がある。氏家歯科医師と三豊総合病院の口腔ケア支援を得て、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーの保護に努め、自尊心を傷つけない声かけと対応への配慮で、トイレで失敗をしないよう支援している。	利用者の排泄パターンを記録し、自尊心を傷つけないようにさりげない声かけ、失敗しない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を多く使用し、水分摂取量のチェックを行い、日中の運動量を適度に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調に留意するとともに、本人の意向を大切にしながら入浴支援をしている。	利用者の希望や体調に合わせて本人の希望により、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着くよう言葉かけを工夫し、精神が安定できるよう環境へ配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理と様子観察、経過観察に配慮し、情報をスタッフが共有し、異常時は医師に相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の意思を確認しながら、おやつへの配慮、レクリエーションへの配慮を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の情報を得ながら季節折々の外出、外食を楽しんでいる。地元の食事処も協力して下さる。	近隣地域の情報を得て、かりん祭り、空海祭り、ホームのふれあい祭り、ガーデン祭り、皇帝ダリア見学、外食にも出向き、利用者から喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との連携を取りながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりはないが、希望のある時は電話の支援を行い、お知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、ご利用者各自が季節に応じて書いた習字や工作物を展示するなどして、居心地よい空間づくりに努めている。また、照明の点滅やカーテンの開閉により、混乱が生じないよう努めている。	廊下には利用者の作品を展示し、音楽や照明、カーテンの開閉などにも配慮して、居心地のいい空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎコーナーを設置し、一人になりたい時、あるいはご家族来訪の時に利用できる場を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とスタッフで相談しながら、本人らしい部屋づくりを支援している。	利用者の使い慣れた物を持ち込み、個々に特色ある居室づくりがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台、トイレの各室設置により、見守りで行えるように工夫している。		